

5. 一般臨床の中の小児歯科：その現状と展望

◦ 松本晋一

(人吉市・松本歯科)

演者は人口4万の小都市の開業医として4年目を迎えました。その地域背景と経験の中から、よりよい小児歯科診療を遂行するにあたって、診療の現状、小児歯科の守備範囲（何ができて何ができないのか）、その理由因子について、及び今後の診療内容の充足課題等を地域開業医の観点から展望し、考えを述べてみたいと思います。

6. 可撤性保隙装置の咀嚼回復についての検討

◦ 吉元辰二，大野秀夫，永井真弓，森主宜延，小椋 正

(鹿大・歯・小児)

可撤性保隙装置は、主に Dental Age III A 期以前に多数乳歯の欠損した小児の保隙、また審美性や咀嚼能の回復を行なう重要な装置であると考えられる。演者らは今回咀嚼の回復に焦点をあて、可撤性保隙装置を装着した場合、咀嚼の回復が充分行なわれているのか、あるいはどのような変化がみられるのか筋電図を用いて検討したので報告する。

7. ダウン症児の歯科学的研究

(その1) 乳歯萌出について

◦ 武田康男，(北九州市立総合療育センター・歯科)

中田 稔 (九大・歯・小児)

ダウン症の乳歯萌出へ及ぼす影響を調べるため、ダウン症48名(資料月齢9ヶ月～42

ケ月)の混合型経年乳歯萌出資料を用い歯種別に乳歯萌出月齢を求めた。又、核型の乳歯萌出に及ぼす影響を検討するため甲状腺機能に異常のないダウン症児32名(トリソミー27名、モザイク5名)の萌出月齢の standard score (岡本の乳歯萌出時期を標準値とした)を求めた。更に身長・体重に及ぼす影響と比較した。

8. 接着性コンポジットレジンの臨床統計的観察

- 中尾哲之(福岡市・中尾小児歯科)
- 毛利元治(福岡市・もうり小児歯科)

私の診療室では、乳歯の歯冠修復に接着性コンポジットレジンを広く使用している。今回、その接着性コンポジットの臼歯部における臨床評価のため統計調査を行ったのでここに報告する。対象は、昭和55年3月より本院を訪れた新患300名のうち、コンポジット修復を行った症例である。調査内容は、年齢、う蝕状態、充填部位、形態、臨床経過等である。観察期間は、充填後短期間のものから最長39カ月間にわたっていた。

9. 乳歯コンポジットレジン冠の 臨床成績並びにSEMによる観察

- 後藤譲治, 細矢由美子, 中村友美

(長大・歯・小児)

コンポジットレジン冠は乳前歯の審美的な修復として多用されているが、その臨床成績の報告は極めて少ない。

そこで、乳前歯に対して応用されたコンポジットレジン冠87例について、最長1480日にわたる臨床観察を行った。

また、交換期にいたり抜去した6例については冠縁の状態等を走査型電子顕微鏡によって観察を行ったので報告する。